

テキスト抜け、SSのトリミングや貼付位置の甘さがありますがご容赦願います。

FF14 備忘ログ(PATCH2.0) クラフター編



鍛冶師クエスト

鍛冶師ギルド 入門編

鍛冶師ギルド受付

ランドウルフ：冒険者か、ここは「鍛冶師ギルド」だぜ。あんた、うちのギルドに興味があるのかい？
うちら鍛冶師は鉱石から金属を精製し、形を変えて、あらゆる武器や道具を生み出す。石に命を与える、いわば金属の創造主だ。
あんたも、この技術を学びたいってんなら、うちに入って修行することを勧めるが……どうするね？

いいえ

おっと、そうなのか？ そいつあ、ちょいと残念だな。見込みがあると思ったのによ。
まあ、そういうことなら仕方がねえ。興味が湧いたら、また来てくれや。鍛冶師ギルドのこと、あれこれ説明してやるからよ。

鍛冶師ギルド受付 はい

ランドウルフ：ほっほー！いい返事だ、いいぜいいぜ、やる気まんまんだな。
んじや、まずは先人の心意気を知るためにも、鍛冶師ギルドの歴史ってやつを頭に焼き付けてもらおう。
そもそも、リムサ・ロミンサで鍛冶が発展したのは、この都市が海賊と深く関わっていたからだ。
奴らの武器や、船の部材を作ったんだからな。
そして、塩気たっぷりの海風にさらされても、錆びついちまわねえように技術が磨かれていったのさ。
この島に、コボルド族が住んでたのも幸運だったな。連中の冶金技術は、かなり進んでるんだ。
今じゃ敵対してるが、昔は技術交流もあったのさ。
そんなこんなのでリムサ・ロミンサでは、鍛冶の技術が抜きんでて発達したわけだ。
そうなると、貿易の目玉にもなるってことで、150年くらい前に、このギルドが作られたのさ。その目的は、ずばり技術の保護だな。
優れた鍛冶の技を、次の世代に受け継ぐと同時に、他都市に秘密がバレないように守ろうとしたんだ。
もっとも、他都市と良好な関係を築いてる今では、やる気がある奴なら、冒険者でも受け入れているがな。
だが、それこれも、あんたがギルドマスターの旦那のおめがねに覚えばの話だ。
本気で鍛冶ギルドに入りてえなら、もう一度俺に声をかけろ。



鍛冶師ブリサエル副社長

鍛冶師ギルド受付

ランドウルフ : お……腹は決まったか？ 決まったんだよね、俺に話しかけたってことは？

いいえ

なんだなんだ、冷やかしかあ？ 俺は遊びに付き合ってるほど、暇じゃねえぞ。おい、まだ腹が決まらねえなら、今は帰りな。もっとも、こっちは焦ってるわけじゃねえ。あんたの好きにすりゃいいぜ。ま、たっぷりじっくり悩むこったな。

はい

ようし……いい返事だ。ここでハッキリ答えなかったら、ギルドマスターには会わせなかつもりだったぞ。うちのギルドマスター、**ブリサエル**の旦那は、そういうところには無頓着な人でな。受付の俺が締めてかないと、ギルド全体がダレちまう。ま、とにかく話してみてくれ。「ブリサエル」の旦那に認められれば、あんたもギルドの一員だ。鍛冶場の2階で、渋い顔で考え事してるのが、その人さ。

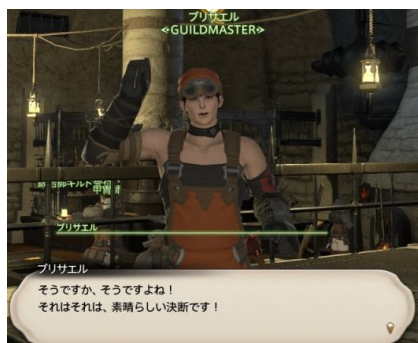
ブリサエル : いやいや、お待ちしていましたよ！ ランドウルフ君と話していた方ですね？ 僕はブリサエル、鍛冶師ギルドのギルドマスターです。鍛冶師を目指したいのですよね？ でしたら、この僕と鍛冶師ギルドがキミを全面的に後押ししますとも。なに、疑ってかかることはありませんよ？ ただいま、鍛冶師ギルドでは有望な新人を募集中です。入門希望者は、大歓迎ですとも。さあ、どうです？ キミも僕たちと一緒に、鍛冶師ギルドで頑張りませんか？

いいえ

ブリサエル : えええええええ……！ ほ、ホントですかあ？ あの、考え直してみませんか？

はい

ブリサエル : そうですか、そうですね！ それはそれは、素晴らしい決断です！
◇◇◇ ◆◆◆さん、僕たち鍛冶師ギルドは、キミの入門を全力で歓迎しますよ！
鍛冶師の素晴らしいさについてたっぷり時間をかけて教えてあげますとも。そう、浮気など少しも考えないほどに！
それでは、キミの入門記念として僕からの贈り物です。これは「ウェザード・クロスペインハンマー」僕たち鍛冶師の商売道具ですよ。さあさあ、さっそく装備してみてください。装備できたら、まっさきに僕に声をかけてくださいな。
新人鍛冶師が誕生した瞬間ってやつを、僕自身の目に焼き付けておくために。



鍛冶師の鍛え方

ブリサエル : お、装備していただきましたか。ハンマーは、鍛冶師にとって大切な相棒。これを、しっかり肝に銘じてくださいね。
それにしても……とてもよくお似合いです。誰もがキミのように、鍛冶師を目指してくれれば僕の胃痛も少しは和らぐのですが……。
さあ、ハンマーを装備できたことだし、早速、これを使って金属を鍛えてみましょう。実作業こそ、鍛冶師の腕を鍛える近道ですから。
まずは「**ブロンズインゴット**」作りから始めましょう。インゴット作りは、金属加工の基礎中の基礎。これをおざなりには、できません。
詳しく説明しますと、「ブロンズインゴット」とは「銅鉱」と「錫鉱」で作り上げた合金の塊です。
材料となる「銅鉱」と「錫鉱」は、この鍛冶師ギルドにいる「スミドヘームル」から、購入することができますよ。
そして、金属を鍛えるのに欠かせないのが「ファイアシャード」です。
金属加工には高温が必須。「ファイアシャード」は加工中、炉の高温維持を助けてくれる触媒です。
れら三種類の素材を揃えて、「ブロンズインゴット」を作るのです。頑張ってくださいね。

ブリサエル : 「ブロンズインゴット」を作ってください。材料である「銅鉱」と「錫鉱」は、鍛冶師ギルドにいるスミドヘームルから買えますからね。

ブリサエル : おおう……やりますなあ。いや、驚きましたよ、これほどとは。
ええと、まったくの初心者なのですね？ 鍛冶師の初歩の初歩を、今まさに学んでいる最中の。
正直、信じられません。スブの素人が、これほどまでに見事な「ブロンズインゴット」を作り上げるなんて。
僕はもしかして、とんでもない天才の誕生する瞬間に、立ち会ってしまったのでは？
ブロンズインゴットは合金としては柔らかい部類です。ゆえに加工しやすく、様々な武器の素材になりますが……。
実用的な強度を出すことは、なかなか難しい。
ですが、キミの作ったこれは完璧。一流の職人が作り上げたものと、遜色ありません。今すぐにも、商売にできるものですよ、これは。
初めてにして、これだけの物を作れるとは。どうやらキミは、工神ピエルゴに愛されているようです。
ふふ……これは、実に教え甲斐のある新人が入門してくれたものですね。あなたには、もっと「上」を目指してもらいましょうか。
ですが……下積みをおろそかにはできません。いくら天才的であっても、最後にものを言うのは経験の蓄積です。
「ブロンズインゴット」で、経験を積んでください。重ねた経験が、そして流した汗が「自信」に変わったころ、
金属の新たな加工方法をお教えしましょう。



製品と精度の関係

プリサエル： おおっ、キミを待ちかねていましたよ！ もう来てくれないんじゃないかと心配で、胃薬の量が増える増える……。ですが、こうして来てくれたのですからね……。キミの才能を、必ずや磨き上げてみせましょう。というわけで、キミの基礎をしっかりと固めますよ。「クロスベインハンマー」を3個製作してみてください。これは、僕たち鍛冶師が使う道具のひとつですね。材料は「ブロンズインゴット」と「メーブル材」と「草布」。ブロンズインゴットの製作は、もうお手の物ですよ？では、材料調達はいかがでしょう？「採掘師」ならば、「銅鉱」や「錫鉱」のような鍛冶師がよく使う材料をザナラン地方で採集できます。あるいは、鉱物を好む「コブラン」という魔物を討伐することでも、手に入れられることがありますよ。それでは、キミがどう青銅を加工してみせるのか……。期待して待っています。頑張ってくださいね。

プリサエル： どうですか？ 「クロスベインハンマー」は完成しましたか？ 3個でいいですからね？

プリサエル： ほっほう、これはこれは見事なものですなあ。いやはや感服いたしましたよ。これほどの完成度を見せていただけるとは。青銅でハンマーの頭を作り、メーブル材の柄と組み合わせるだけ……。シンプルな作りですが、これがなかなか奥が深い。接合部分の精度をきっちりと出さないと、ハンマーとして使用に足る強度が出せません。それに青銅の熱による伸縮まで計算に入れなければ、ハンマーの柄が緩み、頭がすっぽ抜けたりする事故に繋がってしまうんですよ。実は僕も昔、そういう失敗をしました。なかなか、最適な状態を覚えられなかったんですよ。その点、この「クロスベインハンマー」は完璧です。微塵の欠点も見当たりませんよ。流石は僕の見込んだ方と言うべきかそれとも未恐ろしいと言うべきか。お見事です、としか言いようがありません。どうやらこんな初級、こんな初歩の課題ではキミにとっては物足りなかったみたいですね。次の機会には、もう少し上を目指していただきましょう。そのために、この「アマチュアファイル」をお持ちください。**プリサエル**： これは「副道具」といしまして、ハンマーのような「主道具」と併せて装備することで、作業がやりやすくなる、というものです。新しい鍛錬をお教えるのは……。そうですね。そのファイルの扱いに慣れた頃にしましょうか。では、その時にまた会いましょう。



小さくも重要な部品

ブリサエル： いやあ、キミの活躍のおかげで最近はお腹の調子が良くなりまして。胃薬の量もだいぶ減ってきましたよ。何事も身体が資本ですからね。健康であればこそ、鍛錬の効果も増えるというもの。もっともキミは、そのくらい先刻承知のようですね。適度な努力を重ねて、また腕を上げたのが分かります。しかしながら、慢心するのは早いですよ。あなたは、一流という新大陸を目指し、大海原へ漕ぎ出した小舟のようなもの。目的の境地にたどり着くまで、海原を糧でこぎ続けるように、努力を積み重ねるのです。というわけで……「ブロンズリベット」を12個作ってください。

ブリサエル： 「ブロンズリベット」を12個ですよ？ できましたか、◇◇◇ ◆◆◆？

なかなかの品質です、すばらしい。天才とは、まさにキミのことですね。このブロンズリベットは、金属と金属を繋ぎとめるための大事な部品。打ちこんだリベットがガタついただけで、その製品は、即、不良品と判断されてしまうのですから。このちっぽけな部品が、製品の精度を決め、お客様の満足度を決めるのです。お客様の満足を、僕たち職人は常に意識しなければなりません。求める人のために物を作るのが職人だからです。お客様のためにという真心を、品物に込めましょう。それが一流への条件です。しかし、真心だけでも意味がありません。場数を踏まぬことには、鍛冶の腕は磨けませんよ。そうですね、たとえば冒険者ギルドのチャ・モクリさんから、ギルドリーヴの製作稼業を、引き受けてみては？ 鍛冶師としての腕を磨くための、いい経験になるのでは、と思いますよ。



ブリサエルの野望

ブリサエル：聞いてください、僕、少々悩みごとがありまして……。しかし良案は浮かばず、胃が痛くなるばかりで減った胃葉の量がまた増えちゃいました。
僕はリムサ・ロミンサ最大の造船会社である**ナルヴィック&ヴィメリー社**の**副社長**をやっております。
そこで、会社の営業戦略について、ここのごところずっと悩んでいるんですよ。
モラビー造船廠での新規造船は順調なのですが、黒渦団からの発注ばかりに頼るわけにもいきません。
もっと仕事の受注先を広げなくてはと考えまして、今まで交流の少なかったグリダニアに、商売の手を広げていこうかと。
しかし、生憎とあの都市については、あまり詳しくないのですよな。
グリダニアで売れそうな製品について、詳しい人から話を聞きたいところなのですが……ちょっと困っているんですよ。
リムサ・ロミンサで他都市に詳しい方といえば、「**フェーズアール**」氏という方なのですが……。ええ、取引先の交易商人です。
……実は、僕、ちょっとあの方が苦手です。強面なんで、ビビってしまうんですよ……。そこで僕の代わりに聞いてもらえないかと。

フェーズアール：……ほほう、グリダニアで商売をするためにワガハイの助言をもらいに来たと？　ブリサエルの言いつけで？
まったく、相変わらず気が小さく、小賢しい男よ。ワガハイに直接、声をかければ良からうに。そんな気弱だから胃葉が手放せないんじゃない。
まあ、ええわい。ブリサエルのバカにも聞こえるよう、デカイ声で教えてやるぞい。
……ワガハイが改めて言うほどのことではないが需要のあるところに、需要のある品を供給すれば、商売は儲かる、これが真理じゃ。
そういう観点から考えるとグリダニアに目をつけたのは悪くない。あの都市では今、金属製品の需要が増えておる。
かの地は、革細工師ギルドと木工師ギルドを擁し、皮革や木材を使った品が主流じゃった。
そのため、ヌシら鍛冶師が得意とする金属製品はグリダニアにおいて主流足り得なかった。何せ刃にすら翡翠を使ったりする連中じゃからの。
しかし、第七靈災の傷も癒えてきた昨今ではかの地の情勢も変わりつつある。
……冒険者の流入が増えてきたのじゃよ。彼らはグリダニアの伝統にこだわることはない。純粹に品質だけを求める傾向があるんじゃない。
ならば彼らが納得いく品質の製品を送り出せば商売としては十二分に成算が見込めるはずじゃよ。どうする？　試しにやってみるか？
「**スパタ**」と「**スパイクドラブリュス**」じゃ。その二つを作ってみるがいい。ヌシの腕前で商売になるか、確かめてやろう。

フェーズアール：品物は覚えているか？　「スパタ」と「スパイクドラブリュス」じゃ。両方を1個ずつじゃぞ？

フェーズアール：待っておったぞ。では、あちらで見立てるとしようかのう……。！
ふうむ……。なるほど、これはこれは。必要十分……。以上じゃな、この出来は。
ブリサエルの使いつ走りだと思っておったが、どうやら考え違いをしておったようじゃの。ワガハイ、ヌシを少々侮っておったか。
「スパタ」なる剣は、取り回しやすさが肝心。やや細身で長めに作られた刀身が、しっかりと手に馴染まねば完璧とは言えぬ。
ヌシの作った「スパタ」はその点、素晴らしい。ワシでも敵をバツバツと斬り倒せそうじゃわい。
この「スパイクドラブリュス」も大したものよ。肉厚の刃には飾り気こそないが、それがまたいい。
ただものではない強度と破壊力を予感させる……。！
保証しよう、ヌシが作った武具ならばすぐにでもグリダニアで商売ができるぞい。いや、むしろワガハイに売らせてほしい。
今回の品物はワガハイが預かっておくでな。何、ブリサエルも文句など言いはせんよ。
これから早速、グリダニアに渡りをつけるぞい。はてさて、あちらでどれほどの儲けになるか。久しぶりに楽しみにしてきたの。

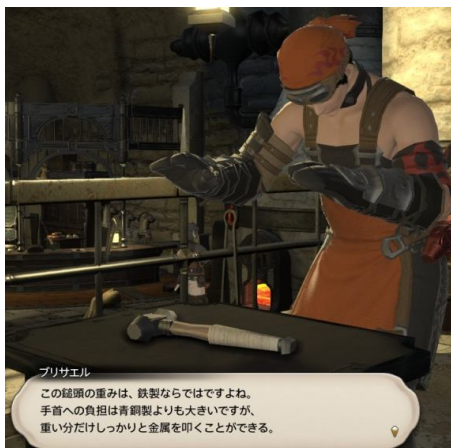


商売道具と鍛冶の腕

ブリサエル： やあやあやあ、いつギルドに顔を見せるのかと首を長くして待っていましたよ！
キミが作った「スパタ」と「ラブリウス」なんですが、グリダニアでかなりの評判だと連絡がありました。
どうやら僕が思っていた以上の腕をお持ちのようで。ちょっと見くびりすぎでしたね、すみませんでした。
今後は、さらに高度な仕事を頼んでいこうと思います。早速、「**アイアン・クロスベインハンマー**」を1個作ってきてください。
ただし、アイアンインゴットはギルドショップのスミドヘームルは扱っていません。
鉄鉱は、自力で集めて作ってもいいですし、「西国際街商通り」のマーケットボードを見て、
売りに出ていないか探してみるのもいいでしょう。
それから、あなたは腕をだいぶ上げられたのでより高度な仕上げに挑戦してみていただきたい。「**マテリア**」の装着です。
「マテリア」とは、思念が宿るほど使い込んだ装備品を特殊な技術によって結晶化したもの。
これを別の装備品に装着すると、性能を強化できるのです。
もし「マテリア」の装着方法が分からないなら中央ザナランの「狼煙の丘」を訪ねてみてください。
「ミュタミクス」という名のご布林族が、教えてくださいよ。
それでは、早速製作に取り掛かってください。「アイアン・クロスベインハンマー」のマテリア付き、よろしくお願いしますね。

ブリサエル： 「アイアン・クロスベインハンマー」のマテリア付き、1個完成したら、見せてくださいね。

ブリサエル： うむ、素晴らしい出来です！ 強度、精度ともに、まったく問題ありません。僕まで欲しくなっていましたよ。
この鎚頭の重みは、鉄製ならではすよね。手首への負担は青銅製よりも大きいですが、重い分だけしっかりと金属を叩くことができる。
滑り止めとして柄に巻かれた「綿布」もいい。掌にどれだけ汗をかこうとも、決して滑りません。
熱く灼けた金属を扱うときには、心憎い気づかいですよ。
僕たち鍛冶師は、自分たちの道具を自分たちで作れます。ですから、自作の道具にこだわる人も多い。実際、この僕もそうです。
そんな僕が、この道具を使ってみたいと思ったんですからこれはすごいことですよ？
つくづく、キミが入ってくれてよかった。キミのおかげで、最近は胃の調子もいいんですよ。
キミには、我がギルドの看板職人になってほしい。ここで甘んじることなく、努力を重ねてくださいよ。
もっともこのハンマーを見るかぎり、あまり心配は要らないようですけどね。
慢心しないというのは才能です。甘えがないというのは武器です。あなたには恵まれたものが、備わっていると思いますよ。

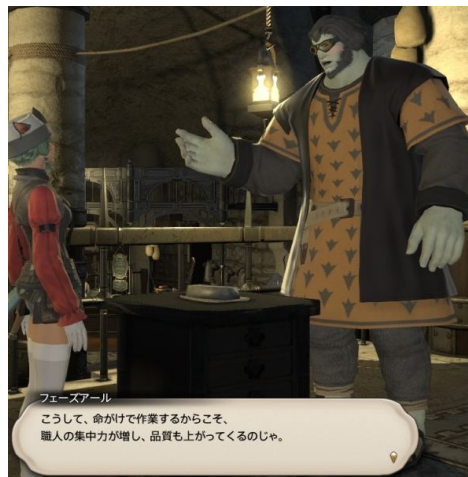


品質向上を目指して

プリサエル：キミもギルドに入門してから大分経ちますね。ウチにも馴染んできた、というところでしょうか？ ですが、気を抜いてはいけませんよ？ 僕たち職人は、技能向上を目指し続けねばなりません。お客様は常に、より上の品質を求めてきますからね。これに応えられなくなったときが、職人としての死です。僕だって、仕事の不安や恐怖で胃が痛んでも、それをお客様に隠して、頑張っています。特にキミなら、さらなる「上」を目指せます。そのためにも、鍛冶師としての経験を、もっと増やしてほしいんです。たとえば……今、フェーズアール氏から「スチールインゴットHQ」の注文が入っています。納品数は、たったのひとつ…… ですが、品質は最高級を求められています。完成品の質を高めるには、材料も高品質のものを使用するといいいでしょう。ですが、スチールインゴットHQのような素材の品質を高めるのは緻密で困難をきわめる作業……。つまりこの注文は、フェーズアール氏からの挑戦状なのです。さあ◇◇◇ ◆◆◆さん、彼が驚くような品質の「スチールインゴットHQ」を作り上げ、フェーズアール氏に届けてあげてください！

フェーズアール：おお、プリサエルめ、やはりヌシを指名したか。いいか、わしが欲しいのは「スチールインゴットHQ」じゃ。たった1個でいい。だが、とびきり高品質なのを頼むぞ。

フェーズアール：それじゃ、いつものように奥のほうで、じっくりと拝見させてもらうかの。むむむ、これはわしの想定以上の出来栄え。「スチールインゴットHQ」を、これほどの品質で仕上げるとは、ヌシはすでに鍛冶師としては一人前と言っていじやろう。スチールインゴットは「ボムの灰」を用いることで、通常では起こりえない高熱を発生させ、作りだす金属じゃ。高熱下で鍛えられた「鉄鉱」は、驚くほど強靱なスチールインゴットとして完成する。無論、口で言うほど簡単な作業じゃないわな。なにせ、「ボムの灰」の扱いは難しいからのう。手元が狂ったせいで大爆発なんて話もよく聞く。こうして、命がけで作業するからこそ、職人の集中力が増し、品質も上がってくるのじゃ。……それにしても、ヌシほどの者がいるなら、鍛冶師ギルドの未来は、安泰じゃのう。プリサエルの胃も休まるというもんじゃ。わしも、安心してヌシを指名することができる。ヌシの今後の活躍を期待しているぞ！



大富豪からの指名

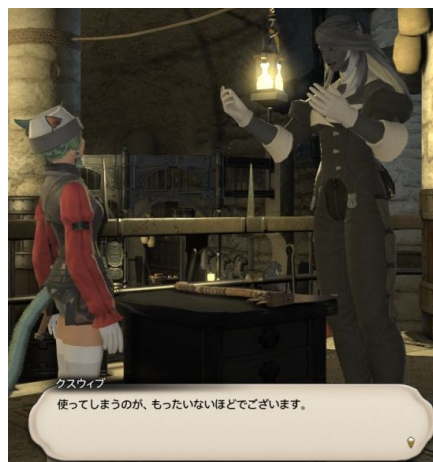
プリサエル : ……喜んでください、キミをご指名の依頼が舞い込みました。
気負う必要はありません。僕もギルドも、全力で後押ししていきます。キミが気に入られば、ギルドの名も上がりますしね。
それで……仕事の中身なんですがね。「コスタ・デル・ソル」を知っていますか？
東ラノシアの「ブラッドショア」と呼ばれる海岸のあたりです。
今はウルダハの富豪が住む、居留地になっていますがね。その富豪がキミの噂を聞き付けて、キミを指名してくださったそうですよ。
海岸を買い取るほどの富豪とよしみを結ぶなど望んでかなうものではありません。
キミにはきっとピエルゴ神の加護があるのでしょう。もしかしたら、ナルザル神の加護も！
それほど、キミは機会に恵まれています。この好機を逃すわけにはいきません。
詳細は、今回の仲介役を務めてくださる「フェーズアール」氏に聞いてください。彼こそが、キミを富豪へ紹介してくださったのですよ。

フェーズアール : おう、来てくれたか。すまんのう、いつもいつもヌシには世話になる。
ある程度は話を聞いていると思うが「コスタ・デル・ソル」の豪商からのご指名じゃ。
依頼主は、一流を見る目のある御仁で。ヌシは、そのめがねに合ったというわけじゃ。胸を張ってよいぞ。
ただしその分、要求する品質も高くてのう。生半可なものでは、納得いただけないどころか、
ドジを踏めば、リムサ・ロミンサでの仕事は干されるじやろう。
ヌシのことは信じておるが、くれぐれも気を抜いてくれるなよ。
では、腹が決まったら、富豪殿の使いに詳しい話を聞くがええ。家令を務められる「**クスウィブ**」殿は、
鍛冶師ギルドのカウンター前でお待ちだ。

クスウィブ : あなた様が◇◇◇ ◆◆◆ですか？ この度は、かように不躰な依頼を受けていただき、まことにありがとうございます。
フェーズアール様より、お話をいただいてから、我が主が、ずいぶんと乗り気になりました。
こうして、あなたを訪ねて参った次第でございます。
当家には、長年仕えてくれた園芸師がおりまして、その者に忠勤をねぎらいたい、というのが我が主の意向です。
そこで、これまでの働きに敬意を表し、今後の活躍を期待する思いを込めて、新たな、それも最高級品質の道具を贈ることになりました。
そこであなたに依頼したいのが、「**チョコボハチェットHQ**」の製作でございます。
言うまでもありませんが、我が主は「コスタ・デル・ソル」を所有するほどの方。主が贈るに恥じぬ道具をご用意くださいませ。
では、よろしくお願いいたします。◇◇◇ ◆◆◆様。

クスウィブ : あなたが、どんな「チョコボハチェットHQ」を作ってみせてくれるのか、楽しみにしています。

クスウィブ : おお、待っていた甲斐がありました……。これほど素晴らしい「チョコボハチェットHQ」が届くとは！
フェーズアール様から、新進気鋭の鍛冶師と聞いておりましたが、噂通りの素晴らしい品質です。
この刃の輝き……とても園芸具だとは思えません。一部の隙もなく、一切の妥協のない仕上げ…… いやはや感服いたしました。
使ってしまうのが、もったいないほどでございます。
……ああ、無論飾ったりなどいたしませんよ？ 園芸具は、使われてこそ華というものです。
主より感謝の印として庭師へ贈られたならば、彼は、この見事なハチェットを駆使して、見事な庭を作庭してくれることでしょう。
では、私めはすぐに屋敷へと戻らせていただきます。フェーズアール様にも、よろしくお伝えください。



フェーズアール : うううむ、完璧な仕事ぶりじゃったようだな！ さすがはヌシじゃ、信じて任せてよかったワイ。
クスウィブ殿に、あれだけ言わしめる鍛冶師など、リムサ・ロミンサ広しといえど、ヌシの他には数えるほどしか、おらんじやろう。
ぜひ誇ってほしい。ヌシは一流の鍛冶師じゃ！
さあ、「プリサエル」にも、結果を報告してやれ。今頃、ヌシを心配しすぎて、胃の痛みが限界だろうから。ついでに、伝言も頼みたい。
決してヌシを粗略に扱うなよ……とな。ヌシが鍛冶の腕を磨き続けるかぎり、ワシはヌシの味方でおるでな。

プリサエル : キミを粗略に扱うなど、フェーズアール氏が？ まったく……何を言うかと思えば、バカなことを。
そんなこと、僕がするわけありません。キミの実力を誰よりも知っているのは、この僕です。
つまり、鍛冶師ギルドが、キミの実力を認めているのです。
キミには、もっともっと働いてもらいますよ。そして鍛冶師と、鍛冶師ギルドの希望の星になってください。

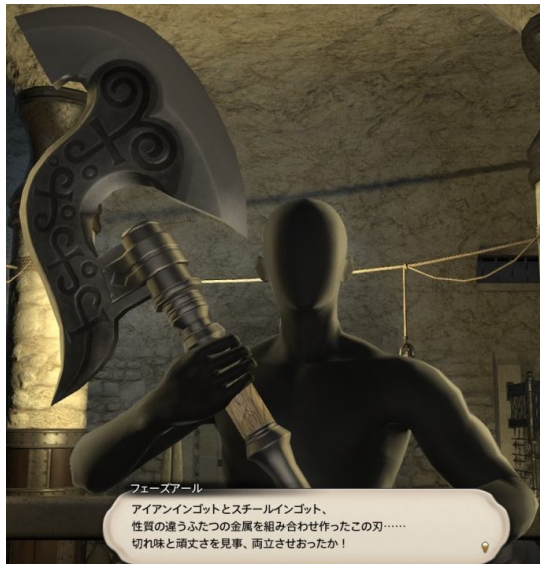
フェーズアールの道楽

ブリサエル：う……うぐぐっ！？ い、胃のあたりがまた、ズキズキと……ぬうっ！
実は……やっかいな注文が舞い込みましてね。フェーズアール氏からの依頼ですよ、まったく胃が痛い……。
あの方、ウルダハにあるコロセウムの熱烈なファンでして。闘士たちのスポンサーをやってるくらいの人なんですよ。
ケチなあの人、唯一の道楽なんです。
そのフェーズアール氏に、闘士の何某が泣きついたらしく、闘士用の武器を作ってくれという依頼が……。
フェーズアール氏の機嫌を損ねるわけにはいきません。彼、グリダニアやウルダハと商売するための窓口ですし。
こんな仕事、キミにしか頼めません。早速「フェーズアール」氏から、話を聞いてください。よろしくお願いします！

フェーズアール：おう、ヌシが担当になってくれたんじゃな！ ブリサエルの奴、なかなかワガハイの意を汲んでくれたわい。
ワガハイ品員の闘士は斧術士でな、豪快な戦いをしよる男よ。そこで、豪快な戦いぶりにふさわしい武器をやりたいんじゃ。
そこで「**スチールブーヅHQ**」を1個、製作してもらいたい。頑丈で堅牢な作りの「スチールブーヅHQ」ならば、
その点でまさしくうってつけの斧じゃろ。
よろしく頼むぞ、◇◇◇。ヌシをギルド屈指の腕利きと見込んで任せるでな！

フェーズアール：「スチールブーヅHQ」を1個じゃ、◇◇◇。最高の逸品を頼むぞ、ヌシを信じておるからのう！

フェーズアール：おうおう、完成したようじゃの！ それではヌシの腕前、いつもの場所で見せてもらうぞ。
ほほう、さすがは◇◇◇じゃな！ 黒光りしたこの刃に、ワガハイ惚れ惚れするわい。
アイアンインゴットとスチールインゴット、性質の違うふたつの金属を組み合わせ作ったこの刃……
切れ味と頑丈さを見事、両立させおったか！
まったく、オーロックスの首とて叩き落とせそうな逸品じゃ。ヌシの作った武器を手にしたあやつを、はよう見たいわい。
フッフフ……もっとも対戦相手にとっては、このヌシの「スチールブーヅHQ」は、悪夢の象徴となろうがな。
◇◇◇、つくづくヌシは頼れる奴よ。これからもまたワガハイのため、いいシゴトを頼むぞ！

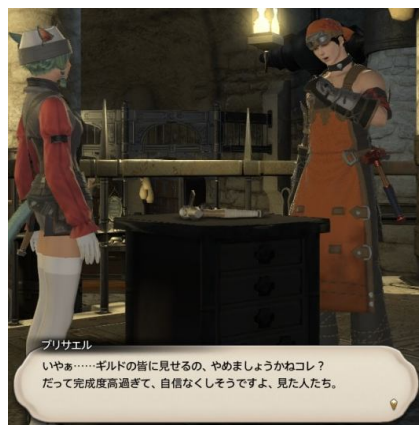
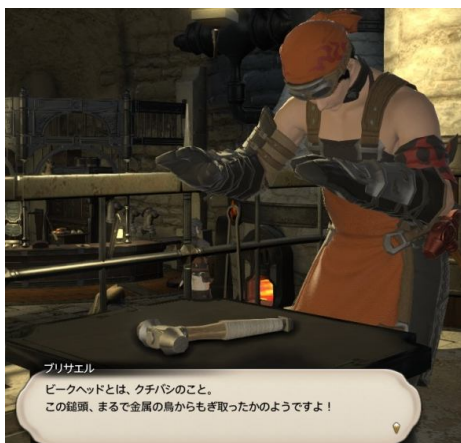


憧れの鉄槌

ブリサエル： いやあ、先日は実にすばらしい、さすがの活躍でしたね！ キミのおかげで、ギルドの名声は高まり、依頼も殺到。忙し過ぎて、胃薬飲んでる暇もありませんよ。
もはやキミの存在そのものが、鍛冶師ギルドの看板だと言っても、過言ではないでしょう。
巷では、キミが作ったものを所有することこそが、見識の確かさの証にさえ、なっている始末。
我がギルドでも、キミの鍛冶具を求める声が多いんです。もちろん、全員分を作ってもらうわけにはいきませんが……
現物を見るだけでも、きっと皆の励みになるでしょう。
そこでですね、キミには持てる技術を尽くして、「ラップド・スチールピークハンマーHQ」を1個作ってくれませんか？
皆には、その再現を目標にもらいますから。

ブリサエル： 「ラップド・スチールピークハンマーHQ」を1個、お願いします。皆の見本になるような、すごいやつを頼みましたからね。

ブリサエル： こ、これはすごい！ 無骨な鍛冶道具だというのに、気品すら感じます！
ピークヘッドとは、クチバシのこと。この鎚頭、まるで金属の鳥からもぎ取ったかのようですよ！
実はこの種類のピークヘッドを持つハンマーは、前後非対称な形のせいで、全体の重量配分が難しいんです。
少し製作をしくじっただけで、使い物にならなくなる。
その点、このハンマーは完璧です。振り上げたとき、振り下ろしたとき、肩の負担にならない！
いやあ……ギルドの皆に見せるの、やめましょうかねコレ？ だって完成度高過ぎて、自信なくしそうですよ、見た人たち。
なんて、冗談ですよ冗談、ノリッ。そのくらいでへこたれてたら、鍛冶師として話になりません。
何せ、キミに対抗心を燃やすような熱い気持ちを、これからのギルド員には、求めていきたいんですから。



美人剣士への贈り物

ブリザール： やあ、◇◇◇君！ キミのおかげで、このところギルド運営も順調ですよ！
ふふふ……僕としては、笑いを抑えきれませんよ。キミをギルドに誘ったのは、我が人生最大の功ですね。
最近は胃薬の量も減って、毎日ご飯がおいしいです。先日も、フェーズアール氏と会食しました。
その席で、ちょっと相談を受けまして……。
ミュリエルさんという、ウルダハのコロセウム闘士が、最近、フェーズアール氏のお気に入りだそうで。
彼女に装備品を贈りたいそうなんですよ。
その製作を、ぜひキミに依頼したいとのことです。詳しい話は、「フェーズアール」氏に聞いてください。
それではよろしく願いますね。

フェーズアール： よう来てくれた、◇◇◇。こんなことを頼めるのは、ヌシだけじゃわい。
それでの、**ミュリエル**ちゃんへの贈り物なんじゃが、あの子は戦いにかけては器用での、武器を選ばんのじゃ。
どんな武器でも鮮やかに使いこなしてのける。ま、そこにシビれるんじゃがのう！
それでじゃ、ヌシには3種類の装備品を用意してほしい。「**コバリトナックルHQ**」「**バックニアバルディッシュHQ**」
「**シヤムシールHQ**」の3種類じゃ。
品物が完成したら、まずはワガハイのところに頼む。ヌシのことは信じておるが、贈り主としてはやはり自分の目で見たいでな。

フェーズアール： 「コバリトナックルHQ」「バックニアバルディッシュHQ」「シヤムシールHQ」の3種類を1個ずつ持ってくるんじゃぞ。

フェーズアール： 品物は、あっちでじっくりと見せてもらおう。ワシの威信がかかっておるでの。
まずは「コバリトナックルHQ」じゃが……実に頑丈そうじゃな。粘りのあるコバリトを使っているからかの？
拳の一撃を確実に敵へと打ち込める、しっかりとした作りは、まるでヌシを体現するかのようじゃ。
そしてこの「バックニアバルディッシュHQ」じゃ。分厚い斧の刃は、蛮族的な野卑に通じるものがある。
一見するとミュリエルちゃんには似合わぬと思えるが、逆に今までにはない、意外な魅力を引き出しそうじゃわい。
最後に「シヤムシールHQ」は……大きく弧を描いた刀身が、これまた美しいのう。
加工の難しいコバリトの扱いは完璧じゃな。ヌシでなければ、この刃の美しい曲線は描けまい。
ごろうじゃった、やはりヌシに任せてよかったわい。
それでは、贈り物をミュリエルちゃんへ届けてくれい。今は、「アスタリシア号」で、鍛錬してるはずじゃ。



ミュリエル： あたしに贈り物ですって？ ああ、前にフェーズアールのおじ様が言っていた話ね。聞いているわよ、あなたが持ってきてくれるの？
わあ……こんなに素敵な武器をいただきちゃっていいのかしら！ うん、これを装備すれば、華麗に勝てそうだわ。
あなたがギルドいちの腕利き鍛冶師だなんて、びっくり！ おじ様が、腕利きだっていうから、
どんな偏屈で厳つい感じの人が来るのかと思ったら。
ふふっ、人は見かけによらないっていうのは、闘士も職人も、同じみたいね。
おじ様に誘われて、稽古がてらリムサ・ロミンサに来てみたんだけど…… あなたっていう「本物」に出会えたのが、一番の収穫だわ！



想いませ羽ばたく剣

ブリサエル：先日ミュリエルさん、ウルダハのコロセウムで大活躍してらっしゃるそうですよ。言わば、戦う広告塔になってくださってます。おかげで、巷ではキミとギルドの評判は、うなぎのぼり。最近では、僕も胃薬知らずです！
ひっきりなしに依頼が入るものですから、どれをキミに回すかという、別の悩みができましたが……
重要な案件は、キミに任せるしかありません。
……また、キミにしかできない依頼がきています。詳しいことは、仲介役の「フェーズアール」氏に聞いてください。
あの方が……今までと少し雰囲気の違い、深刻そうな顔をしていました。気を引き締めて、依頼に取りかかってください。

フェーズアール：む、ヌシが……待ってあったぞ。いまヌシはリムサ・ロミンサで一番の鍛冶師じゃ。
その腕を見込んで、ぜひとも頼みたいシゴトがある。
……ヌシの評判、遠くグリダニアでも鳴り響いておる。ヌシの作ったものならば、鉄器嫌いの偏屈なあの連中が、喜んで買ってくれるほどのう。
この評判を聞き、ヌシを紹介してほしいという依頼が来た。今でこそ、グリダニアに身を隠しているが、昔、**ウルダハのコロセウムで準優勝している方だ**。
……詳しい事情や、依頼については、本人の口から聞いてみてくれい。
冒険者ギルドを囲む橋梁にて、「古風なミコッテ族」を探すのだ。人目を忍びつつ、ヌシを待っているぞ。

古風なミコッテ族：◇◇◇さまで、ごさいやすね？ わざわざご足労いただき、まっこと恐悦至極に存じやす。
故あって名前は明かせぬ失礼……なにとぞご容赦のほどを。
此度の身勝手なお願いは、あなたさまを見込んでのことと、どうか大目に見てくださえと、お願い申し上げやす。
とはいえ、こちらの頼みは難しいことじゃあございせん。ある御仁のため、剣を打っていただきたいのでございやす。
その御仁の名は……ブロンズ・ブル。かつて、コロセウムで私に勝利し、私を生かしてくれた、偉大なる闘士でございやす。
故あって、故郷ウルダハを離れておいででしたが、近ごろ舞い戻り、コロセウムの闘士をやっておられるとか。
その仕儀からすれば、称えられてしかるべき御仁。なれど、顔を隠し一介の闘士として、故郷に戻った彼に、私は朋友としての気持ちを、贈りたいのでございやす。
打ってほしい品は、「**雄略のマテリダ**」をつけた「**ウィングレットHQ**」をひと振り。
鐔に翼持つこの剣に、我が思いを託したいのでござんす。
私のように過去に縛られるな、羽ばたけ、と。
完成したら、「鍛冶師ギルド」にいる「フェーズアール」殿に、お渡しくださいやすか？ 後のことは、あの方にお任せしてございやす。



フェーズアール：話は依頼人から聞いておる。気持ちを込めた「雄略のマテリダ」つきの「ウィングレットHQ」を頼むぞい。

フェーズアール：うむ、「ウィングレットHQ」は確かに預かった。それでじゃな、ひとつだけ頼みがあるそうじゃ。
なんでも依頼人は、ブロンズ・ブルに品を渡すのを、目の前でやってほしいんじやと。本人は物陰に隠れ、姿を見せぬそうじゃが……
なに、段取りはワガハイに任せておくがええ。心配せず、ヌシは早う支度に入ってくれ。

ブロンズ・ブル：よお！ 俺っちに用があるんだって、フェーズアールの旦那？ 一体全体、何なんだい？

フェーズアール：おうおう、よう来てくれたのうブロンズ・ブル。なあに、ヌシにとっても悪い話じゃない。むしろ良い話じゃ。

ブロンズ・ブル：良い話？

フェーズアール：左様、ヌシに差し入れしたいという方がおっての。ワガハイが届ける役目を請け負ったんじやよ。

ブロンズ・ブル：プレゼント？ 俺っちにかい？ いや、気持ちはありがたいがえさ……。今はそういうの受け取る気分じゃねえんだがな。

フェーズアール：負けが、かさんでおるからかの？

ブロンズ・ブル：それは……！

フェーズアール : まあ、そう渋い顔するでない。そんなヌシだからこそ、この場に来てもらったんじや。ホレ、ヌシのために作った剣じや。

ブロンズ・ブル : こいつは……すごい、な……！ なあ、この剣はあんたが作ったのか？
いやすごいな、すごい剣だけこれは。本当に、もらっちゃってもいいのかい？

フェーズアール : うむ、依頼主はそう望んでおるとも。ヌシへの贈り物だそうじやよ。

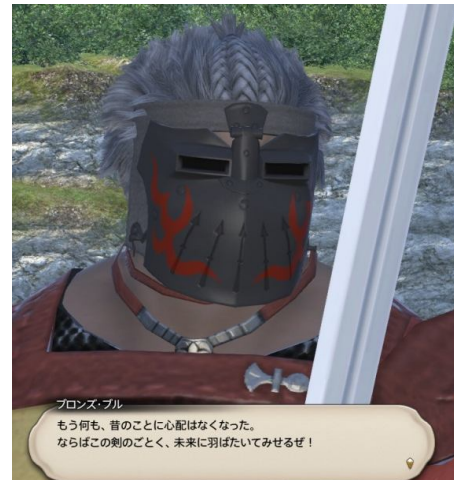
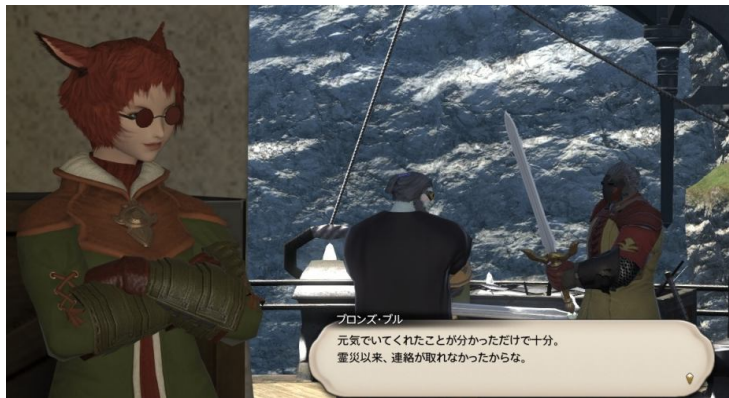
ブロンズ・ブル : あ、ああ、そうかい。ありがたいけどよ……でも、なんで俺っちにこれを？

フェーズアール : 陰ながらヌシを応援している御仁が、その翼持つ剣に、自分の気持ちを託したそうじや。
過去に縛られるな、羽ばたけとな。

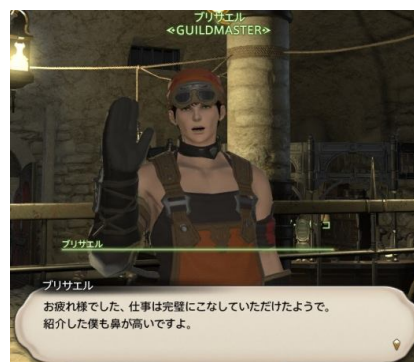
ブロンズ・ブル : そうか……残念だな。……でも、ありがたく使わせてもらう。
姿を見せてくれなくてもいい。俺っちにこんな贈り物をしてくれる奴なんてもう今は一人しか心当たりがねえしな。

フェーズアール : ほほう、そうなのかいの？

ブロンズ・ブル : 元気でいてくれたことが分かっただけで十分。霊災以来、連絡が取れなかったからな。
もう何も、昔のことに心配はなくなった。ならばこの剣のごとく、未来に羽ばたいてみせるぜ！
……俺っちは誓うぜ。この剣と、そしてこの剣を贈ってくれた盟友に。今度こそ、実力でコロセウムのテッペン取ってやるってな。
この剣があれば、絶対にやってみせる！ そのことを、奴によろしく伝えてくれ。



古風なミコッテ族 : やれやれ、バレておりやしたか。さすがに、あの方は何でもお見通しでございやすな……。
……しかし、お互い、おおっぴらに会うことはできない身の上。これでいいのでございやすよ。
あなたさまのおかげで、私の心を彼に届けられやした。感謝の言葉もございやせん。
……おあしについてでございやすが、すでに「ギルドマスター」へ、お渡ししておきやした。それでは、私はこれで失礼しやす。



ブリザエル : お疲れ様でした、仕事は完璧にこなしていただけたようで。紹介した僕も鼻が高いですよ。
キミが来てから僕はずいぶんと助けられてますね。おかげで胃痛の完治も見えてきました！
ですが僕の体調以上にキミという鍛冶師を得られたことが僕は嬉しい。
あの「ウイングレットHQ」に込められた気持ち……僕でさえ、感じ入るものがありました。
己のみならず、お客の心さえも品物へと込める……これこそまさに、超一流の鍛冶師のシゴトです。
胸を張ってください、◇◇◇。今のキミはまぎれもなく……ギルドいちの名工なんですよ。
キミの作った品々の輝きは……まさに別格。キミのような職人がいたことは未永くギルドで語り継がれることでしょう。

登場人物

ブリサエル：鍛冶師ギルドマスター



フェーズアール：コロセウムの熱烈なファン



古風なミコッテ族：ジャ・モルバ。アラミゴ出身。旧14でも登場



ブロンズブル：グレインファル。旧14でも登場



ミュリエル：コロセウムの闘士



クスウィブ：コスタ・デル・ソルのゲゲルシュ家令



ランドウルフ：鍛冶師ギルド受付

